



「CD-ROM 台風の事典」

台風の事典編集委員会 編
丸善, 1998年5月,
定価18,000円

今更私が申し上げるまでもないが、昨今のコンピュータ技術の進歩は目覚しく、デジタルデータの保存媒体にCD-ROMが使われることが多くなっている。このような環境の下、本書はCDに多くのデータを収めるという形で出版された。

このCDには、1927年から50年までの主な台風と、51年から97年までの全台風の中心位置・中心気圧のほか、78年以降の台風については最大風速、強風・暴風半径などのデータも併せて収められていて、これらのデータを表示、印刷できるようになっている。その他、各台風によって生じた人的被害や家屋の損失などの災害の都道府県別の集計表や、洪水氾濫危険区域図や耐風構造に関する説明などの周辺知識が盛り込まれている。

このCDでは収録された任意の台風のデータが取り出せるのはもちろんのこと、地図上の任意の地点を通った台風を選び出すことができる。また、5地点を指定し、これらを12時間間隔で通った台風だけを表示させることも出来る。これは、台風が接近しているときに、過去に似たようなコースを通った台風がないかどうかを検索するには有効な方法であろう。

しかしながら、不満も多くある。何と言ってもユーザーインターフェースがこなれていない。Webブラウザを用いてホームページを見たりしたことがある読者も多いと思うが、このようなユーザーインターフェースに慣れた人はかえってこのCDを使うのに一苦労しそうである。使い方が分からない場合を想定して通常用意されているオンラインヘルプはなく、付属の小冊子をめくる必要がある。また、必ずしも公平な比較ではないかもしれないが、インターネットの世界に溢れている、あるいはパソコン雑誌の付録CDやコンピュータ関連の展示会に行けばいやというほど無料で配布されるCDに収められている画像と比べると、このCDの画像は貧弱で見る者をつかりさせる。画像の選択の仕方によっては表示までに時間を要するもの

もあったし、長時間かけて検索した結果、該当データがないと言われておしまい、ということもあった。表示までに時間のかかるホームページは誰にも見てもらえないというのが常識であるが、CDにも当てはまる。

台風の経路を表示させるにも、台風を選ぶだけでは不十分であり、表示させる時間帯も選択してやらなければならないが、この選び方がまた不親切である。さらに経路を表示できる地図範囲が北緯15度から50度、東経120度から155度に限られており、この範囲に収まりきれない部分は表示できない。また、細かな範囲を見たくても、地図を拡大することもできない。

「事典」と称しているわりにはキーワード検索機能が全くないのも役不足である。たとえば「伊勢湾台風」がどのような経路を通ったのか調べようと思えば、一つ一つの台風リストを見て自分自身で伊勢湾台風を探し出さなければならない。著名な台風については台風番号の他に「伊勢湾台風」のようにその名が併記されているのがせめてもの救いである。

また、特別に1991年の19号台風が取り上げられており、この台風についてはアメダスデータや見応えのある衛星動画なども見られるようになっている。しかしこれはこの台風に限った特別措置であって他の台風についてはこのようなデータはなく、被害がそれなりに大きかったとはいえ何故この台風だけを特別扱ったのか、私にはわからない。他の台風の衛星動画等がないので、他との比較も出来ないし、この台風の特徴を検討することも不可能である。むしろこの台風に関してのみ中途半端に衛星画像があるだけに、他の台風についても同様の画像が見たいと思っても見られないので、読者をがっかりさせるだけである。

値段の高さも気に掛かる点である。いくら貴重なデータが収められているとはいえ、個人で気軽に買える価格設定ではない。一部の台風データのみを収録した廉価または無料のお試し版があれば気軽に利用できるし、購入の参考にもなるが、そのようなものは見当たらない。他の気象データだけであれば、たとえば気象業務支援センターから1996年1年分の毎時間のアメダスデータがアメダス観測年報として2,600円で販売されているのと比較しても高価である。

以上のようにさまざまな欠点はあるものの、冒頭に示したデータがテキストファイルの一種であるCSV形式で収録されている点は大いに評価したい。これらのデータを一旦自分のPC等にコピーした後、さらに解析、加工するのが容易だからである。ただし、「この

CD-ROM に取められているデータは、著作権法によって保護されており、無断で転載・複製することはできません。」とあるので、利用には注意が必要である。しかし、具体的にどのような手続きを踏んで許可を得れ

ばよいのかが説明されていないので、このCDのデータを使った解析を行って論文等を書こうとする際には個別に問い合わせる必要がある。

(気象庁数値予報課 木村陽一)



「第1回秩父宮山岳賞」受賞候補者の推薦募集

標記の賞について、(社) 日本山岳会から受賞候補者の推薦募集がありました。

1. **対象分野**：(1) 優れた登山活動、(2) 「山」に関する人文・社会・自然諸科学の研究成果（活動成果を含む）、(3) 「山」を対象とした芸術作品。
2. **授賞対象者**：上記各分野において顕著な業績のあった日本山岳会の会員・グループ、またはその業績に関して日本山岳会会員が顕著な貢

献を行った団体・学会のグループ。

3. **賞の内容**：表彰状および副賞金（20万円以内）
 4. **件数**：原則1件
 5. **応募方法**：所定の様式により、関係資料を添えて日本山岳会に提出する。山岳会の支部・委員会・会員（グループ）の所属する団体または学会の推薦書を添付する。
 6. **締切**：1998年8月31日（月）
- 応募要領等の詳細は気象学会事務局におたずね下さい。



教官公募

公募職種：助教授 and/or 助手

人数：1名あるいは2名

所属：惑星進化学グループ

専門分野：惑星科学

着任時期：決定後できるだけ早い時期

提出書類：1) 履歴書

2) これまでの研究概要（A4紙2枚以内）

3) 業績リスト

4) 主要論文別刷3編

5) 研究計画書（A4紙2枚以内）

6) 他薦の場合は推薦状、自薦の場合は意

見を聞ける人2名の氏名と連絡先

7) 応募対象の職名

応募締切：平成10年9月16日（水）必着

書類送付先及び問い合わせ先：

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部地球惑星物理学専攻 杉浦直治

TEL：03-3812-2111 内線4307

FAX：03-3818-3247

e-mail：sugiura@geoph.s.u-tokyo.ac.jp

応募書類提出：封筒に応募書類在中と朱書きの上書留で郵送のこと